

## 外傷サーベイランス委員会会議録

会議体の名称	第18回(平成30年度第1回)外傷サーベイランス委員会
事務局(担当課)	セーフコミュニティ推進室
開催日時	2018年9月10日(月) 15時30分~17時00分
開催場所	本庁舎8階 804会議室
議事	<p>1 外傷サーベイランス委員会について</p> <p>(1) 委員委嘱、委員紹介</p> <p>(2) 委員長の選任について</p> <p>2 各対策委員会のデータ取得についての助言・指導</p> <p>3 各対策委員会の予防対象や成果指標の見直しに関する助言・指導</p> <p>4 現地審査員からいただいた助言等に対するサーベイランス委員会としてのサポート</p>
出席者	<p>1 豊島区セーフコミュニティ推進協議会専門委員 市川 政雄</p> <p>2 豊島区セーフコミュニティ推進協議会専門委員 富尾 淳</p> <p>3 豊島区セーフコミュニティ推進協議会専門委員 水村 容子</p> <p>4 日本セーフコミュニティ推進機構代表理事 白石 陽子</p> <p>5 池袋警察署生活安全課長 世取 治郎</p> <p>6 豊島消防署警防課長 内海 基博</p> <p>代理 警防課救急係長 奥田 修士</p> <p>7 豊島区池袋保健所長 佐藤 壽志子</p> <p>8 豊島区政策経営部長 金子 智雄</p> <p>9 豊島区保育課長 田邊 栄一</p> <p>10 豊島区長崎健康相談所長 荒井 和子</p> <p>11 豊島区障害福祉課長 高橋 隆史</p> <p>12 豊島区土木管理課長 柴 俊之</p> <p>13 豊島区治安対策担当課長 秋山 徹</p> <p>14 豊島区防災危機管理課長 廣瀬 陽一</p> <p>15 豊島区危機管理担当課長 長澤 義彦</p> <p>16 豊島区子育て支援課長 時田 哲</p> <p>代理 子育て支援課係長 島崎 祥則</p> <p>17 豊島区男女平等推進センター長 能登 絹子</p> <p>18 豊島区健康推進課長 関 なおみ</p> <p>19 豊島区指導課長 加藤 勲</p>

	<p>20 豊島区地域区民ひろば課長 猪飼 敏夫</p> <p>21 豊島区セーフコミュニティ推進室長 澤田 健</p>
配布資料	<p>資料1 外傷サーベイランス委員会委員名簿</p> <p>資料2-1 各対策委員会の取得データ</p> <p>資料2-2 各対策委員会の予防対象や成果指標一覧</p> <p>資料3 再認証現地審査認証審査員講評</p>
議事要旨	<p>議事1 外傷サーベイランス委員会、委員長及び委員の委嘱状の交付</p> <p>議事2 (事務局より各対策委員会のデータ取得について説明)</p> <p>議事3 (事務局より各対策委員会の予防対象や成果指標について説明)</p> <p>専門委員:各対策委員会には共通事項が多くあるとおもわれるが、データは事務局で一括して収集しているのか。 また、データは、区民に限って収集しているのか、それとも発生場所に基づいてデータをとっているのか。</p> <p>事務局:全般にわたるデータに関しては、一括で収集しているものもあるが、個々の対策委員会に特化したデータは、各対策委員会で収集している。</p> <p>委員:救急搬送データは、豊島区で発生した事故を対象としているのであり、搬送された人が豊島区民であるとは限らない。</p> <p>委員:「子どものけが・事故予防」のデータは、昨年までは公立保育園のみを対象としていたが、認可保育所等のデータを入れる検討はしているか。</p> <p>委員:私立の保育所についてもデータを収集できるよう、進めているところである。</p> <p>専門委員:資料2-2に記載してある対策は、再認証を取得した後で改めて見直しているのか。</p> <p>事務局:今回の資料に掲載している対策は、再認証を取得した時点のものである。現在、各対策委員会で再検討を進めているところであり、見直しを検討しているところもある。</p> <p>専門委員:今回の資料では、それぞれの指標のデータは掲載されているが、それに対する評価がない。再認証の時点での分析をしないと、再認</p>

	<p>証後にどう進めているかが見えてこないのではないか。</p> <p>専門委員：発生頻度の低いものを指標にしていると、分析が難しい。そのような指標は、代替のものを考えていく必要がある。</p> <p>専門委員：成果が出ているのか、ゴールにむけてどのくらい達成できているのか、を見えやすくする必要がある。</p> <p>数字ばかり追うのではなく、数字として結果が出ないのであれば、なぜでないのかを分析していく方が良い。</p> <p>短期・中期・長期というのは、単に時間の長さを指しているのではない。</p> <p>短期というのは、意識が変化すること。</p> <p>中期というのは、行動が変化すること。</p> <p>長期というのは、外傷発生件数・頻度が変化すること。</p> <p>各段階の指標の意味合いを理解したうえで、設定することが必要。</p> <p>事務局：6月の推進協議会において、これまでの取組みと再認証後の取組について、各対策委員会から発表いただいている。</p> <p>議事4 (事務局より現地審査委員からいただいた助言について説明)</p> <p>専門委員：新しいデータの収集等については、サーベイランス委員会にご相談いただければと思う。できるかどうかを検討する段階でも構わない。</p> <p>委員：委員会によって委員構成が異なるが、区民の委員が多いと活発な意見が出る傾向がある。審査員からの指摘を踏まえ、オーナーシップの第1歩として、外部委員の方に委員長になっていただくことに取組んでいる。</p> <p>新しいデータ収集について、また指標の設定方法について、相談する仕組みが構築できていないと感じている。</p> <p>委員：区では子どものヘルメットの助成をしているが、高齢者にもヘルメットの助成をしてほしいという声が上がっており、今後その助成を始めるところである。</p> <p>専門委員：新しい取り組みを始める際に、「他の自治体の状況を知りたい」等、声をあげていただければ事例を紹介することができる。</p> <p>専門委員：地域の公助・共助をどのように進めているのか。</p>
--	---

	<p>豊島区は町のお祭り等、地域のつながりが強いと思うが、そのつながりを生かしてSCの取組を進めていくというのはどうか。</p> <p>専門委員：SCの取組を開始した当初、町会のつながりを生かすという案もあったが、全体との連携が難しいなどの問題があり、進まなかったと記憶している。</p> <p>委員：対策委員会では、町会長や町の団体の会長等に委員になっていたが、町会を単位とした取り組みは現時点ではおこなっていない。</p> <p>専門委員：どのように評価をしていくかは重要なことであるが、現在の「課題」は「目標」にあたるものだったりする。課題の設定から評価まで、どのように進めていくか、体系的に整理する必要がある。</p>
--	---